

第80回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和元年5月27日（月） 10:00－11:00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

（1）委員

葛西委員長、松井委員長代理、折木委員、中須賀委員、山崎委員

（2）政府側

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、星野参事官、高倉参事官、滝澤参事官、森参事官、山口参事官

4. 議事要旨

（1）スペースデブリに関する今後の取組について、事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。（以下、○委員からの意見）

- デブリ低減にあたっては、技術開発が非常に重要であり、今後、力を入れて進めていくべきである。
 - 宇宙デブリとの衝突確率など、宇宙デブリの現状をまず正確に把握することが重要。小さな衛星が多数打ち上げられることが誇張され問題視されがちだが、大きな衛星の方が衝突確率が高い。その辺りも含めて、宇宙デブリの状況を正確に把握することが必要。
 - 宇宙デブリ対策を進めるに当たっては、国内産業の育成の観点も十分に踏まえながら進めていくことが必要。
 - CONFERS（コンファース）などで現在議論されている、軌道上での修理や燃料補給などの新たな取組は、宇宙デブリ低減の観点から大変重要なことであり、日本としてもしっかり取り組んで行くべきである。
- （2）宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項について、事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。（以下、○委員からの意見）
- 技術開発を継続的にやっていくことが重要。特に、測位衛星については、研究体制の整備を含めて、技術開発をしっかり進めていくべきである。また、技術試験衛星9号機などで取り組んでいる通信衛星については、大型衛星を進めるのか、小型化を進めていくのか、世界の技術動向の調査も踏まえて、検討が必要である。
 - 宇宙産業ビジョンの策定以降、民間の取組が本格化してきている。月面資源探査や軌道上サービス、サブオービタル飛行など、新たな活動が出てきている。日本としても乗り遅れないように取り組んで行くべきである。また、本年11月に日本で開催予定のアジア・太平洋地域の宇宙機関間のフォーラムにおいて、アジア地域における国際連携をしっかり進めていくべきである。

- 宇宙科学探査の分野においては、プロジェクトのつながりから、現在、フロントローディングという考えを導入し、進めているが、この考えを技術開発の分野にも広げたらどうか。

以上